



2022年韓国統一地方選挙 ～今後の政権運営への影響は～

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 酒井 陽一郎 (宮崎県派遣)

韓国統一地方選挙の開催

2022年6月1日(法定休日)に韓国国内で「統一地方選挙」が開催された。尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領が辛勝した2022年3月の大統領選の「延長戦」とも呼ばれ、新政権の誕生以降、初となる全国規模の選挙ということもあり、その結果に注目が集まった。

- ◎選挙期日: 2022年6月1日(水) [法定休日]
 - ◎投票時間: 午前6時~午後6時(※コロナ感染者・隔離対象者は午後6:30~午後7:30)
 - ◎任期: 4年(2022年7月1日~2026年6月30日)
 - ◎選出人員: 市・道知事17人、市・郡・区長226人など
- ①市・道知事(17人)、②市・道議会議員(779人)、③市・郡・区長(226人)、
 - ④市・郡・区議会議員(2,602人)、⑤広域自治体議会議員比例(93人)、
 - ⑥基礎自治体議会議員比例(386人)、⑦市・道教育監(17人)、
 - ⑧教育議員(済州特別自治道のみ)(5人)、⑨国会議員補欠選挙(7人)
- ◎投票率: 50.9% ※過去2番目の低水準
- | | |
|-----------------|-----------------|
| [参考] | |
| 1995年第1回: 68.4% | 1998年第2回: 52.3% |
| 2002年第3回: 48.8% | 2006年第4回: 54.5% |
| 2010年第5回: 54.5% | 2014年第6回: 56.8% |
| 2018年第7回: 60.2% | ※第1回のみ任期3年 |

統一地方選挙の概要

しかしながら、投票率は全体を通して50.9%と過去2番目の低水準となり、期日前投票は20.62%と地方選挙史上最高を記録したものの、有権者の政治への関心の低下も課題となる結果となった。

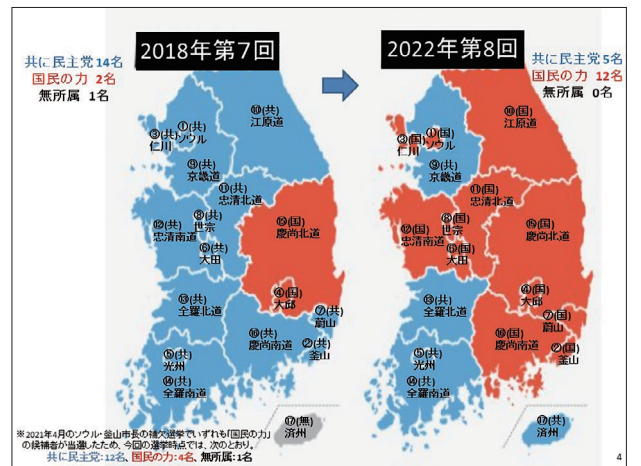
与党「国民の力」の圧勝

17の広域自治体(市・道)長選では、与党「国民の力」が京畿道、全羅北道、全羅南道、光州市、済州道の5カ所を除く12カ所で当選する結果となった。

前回(2018年)の広域自治体(市・道)長選では、現在の最大野党(前与党)の「共に民主党」が14カ所で当選する圧勝を収めたが、わずか4年で地方の政治権力の構図が一変する結果となった。

また、226の基礎自治体長選においても、与党「国

民の力」が145カ所で当選を果たし、前回の選挙時には、151カ所で当選を果たしていた、最大野党「共に民主党」は63カ所、無所属は17カ所、進歩党は1カ所での当選にとどまる形となり、全体として、与党「国民の力」が圧勝する結果となった。



広域自治体(市・道)長選における前回の選挙結果との比較

今回の選挙結果は、2022年5月に就任した尹大統領が早々に米韓首脳会談を実現させたり、新型コロナウイルス感染症の防疫措置で打撃を受けた小規模事業者などに損失保障金を支給する補正予算を速やかに成立させたりしたことなどが好材料となり、新政権を後押ししようとする世論が高まったことや選挙直前まで党内で内紛を続けた最大野党「共に民主党」に対する国民の冷やかな視線が如実に反映された結果となった。

与党「国民の力」は、大統領選の勝利に続く地方選の圧勝で、中央に加え地方の完全な権力交代を成し遂げるとともに、朴槿恵(パク・クネ)元大統領の弾劾後、崩壊状態だった保守系の政党が2016年の総選挙、2017年の大統領選、2018年の地方選、2020年の総選挙と5年間続いた全国規模の選挙での連敗を断ち切ったという意味でも大きな意味を持つ結果となった。

一方で、最大野党「共に民主党」も最大の注目選挙区であった最大広域自治体の「京畿道長選挙」においては、金東兗（キム・ドンヨン）候補が0.2%差の大接戦の末に当選を果たし、政権へのけん制を担う影響力のある自治体長のポストをかるうじて確保して、一矢報いる形となった。

同日開催の国会議員補欠選挙も与党優勢の結果に

地方選挙と同日に行われた国会議員の補欠選挙においても、7カ所で実施された選挙のうち、与党「国民の力」が5議席、最大野党「共に民主党」が2議席を確保し、与党優勢な形となった。

特に注目されていた首都圏である京畿道城南市の選挙区では、与党「国民の力」の安哲秀（アン・チョルス）候補が当選を果たした。

先の大統領選において、候補者の統一のため大統領選への出馬を断念した安氏は、今回の当選を契機に次期大統領選に再挑戦するとの見方も強まっている。

また、同じく首都圏の仁川市の選挙区では、2022年3月の大統領選で最大野党「共に民主党」から立候補し、敗北を喫した李在明（イ・ジェミョン）候補が当選を果たし、最低限の面目を保つ形となった。

しかしながら、最大野党「共に民主党」内では、次期代表の椅子を巡り、李在明候補に対して、大統領選挙に続き、今回の統一地方選挙でも惨敗を喫した党代表としての責任を問う声もささやかれ始めており、巨大野党の分裂・再編の可能性にも注目が集まっている。

地方選挙圧勝も国会では「少数与党」での厳しい政権運営が続く

今回の統一地方選挙では、圧勝を収めた与党「国民の力」ではあるが、国会においては依然として、与党が少数の状態であるいわゆる「ねじれ国会」の状態が続いており、閣僚人事などを巡っては、最大野党「共に民主党」と、交渉しながら進めていかなければならない難しい政権運営を求められている。

日韓関係の改善はもとより、新型コロナウイルス感染症の影響で悪化した経済の回復や不動産価格の上昇に対する対応、緊張が高まっている北朝鮮への対応など、課題が山積している状況下において、少数与党での不安

定な政権運営をどう乗り切っていくのかに注目が集まっている。

国会議員の議席数の現状・補欠選挙の結果					
	政党	地域区	比例代表	合計	割合(%)
交渉団体	共に民主党(野党)	154(2)	15	169	57.53
	国民の力(与党)	92(5)	22	114	37.33
非交渉団体	正義党	1	5	6	2.05
	基本所得党	0	1	1	0.34
	時代転換	0	1	1	0.34
	無所属	5	3	8	2.4
	議長	1	0	1	100
	合計	253(7)	47	300	100

※今回の補欠選挙の結果は、()の7議席。

国会議員の議席数の現状・補欠選挙の結果

今後の日韓関係への影響

日韓関係の改善に比較的前向きな姿勢を見せている尹政権の今回の統一地方選挙での圧勝は、尹政権の安定的な政権運営に向けて良い結果となった。

今後の日韓関係の改善においてもプラスの結果となったという見方が広がっている。

2022年3月の大統領選で尹大統領が勝利して以降、4月末には、韓国からの代表団が訪日したり、5月10日の尹大統領の就任時には、岸田総理大臣の特使として林外務大臣が韓国を訪問して会談を行ったりするなど、日韓関係の改善に向けた対話が活発化してきている。



林外務大臣による尹大統領への表敬の様子（外務省 HP より）

また、一般レベルにおいても新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限も徐々に緩和に向かってきており、観光ビザの発給が再開されるなど、これから日韓の交流が益々活発になると予測されている。今後、日韓の地域レベルでの草の根の交流が盛んに行われるようになることを願いつつ、今後の政局の変化を注視していきたい。